

- ・協定校関係 …………… (1)
- ・協定校・海外交流・留学生関係 … (2)
- ・留学生・日本人学生行事 … (3)
- ・職員交流事業・センターから … (4)

トリサクティ大学 共同研究所設置

秋田大学国際資源学部は2015年4月28日にインドネシアのジャカルタで、トリサクティ大学地球工学・エネルギー資源学部と石油資源に関する調査研究の覚書を締結し、同大学内に共同研究所を開設しました。トリサクティ大学とは2014年6月に大学間協定を締結しましたが、今回の共同研究所開設は国際資源学部が今後目指す資源学ナショナルセンターと連携拠点ネットワークを展開していく上で重要であり、国際資源学部が開設してから初めての海外との研究協力拠点となります。

トリサクティ大学は1965年に設置されたジャカルタにある最大の私立大学であり9学部からなる総合大学です。これまで政官財に多くの人材を輩出し、さらに官庁や産業界との結びつきが強く、トリサクティ大学との関係強化は今後の秋田大学の発展につながっていくものと考えております。

共同研究室ではインドネシア国営石油会社プルトaminaから提供された試料を分析し、約2千万年前からの地殻変動や海洋環境の移り変わりを把握することにより、石油鉱床が形成された仕組みを解明します。計画では3年後を目処にこれらの成果をとりまとめていきます。

国際資源学部では、秋田大学創設以来の強みである資源学分野のさらなる教育研究力強化を図り、日本や世界の資源を支える国際的資源学教育・研究拠点を形成するため、アジア・環太平洋地域の資源学ネットワークを継続して強化していきます。今回のトリサクティ大学との共同研究室を皮切りに、今後もグローバル化に対応した国際資源学研究・教育をすすめていきます。



(大川 卓男：Okawa Takuo 国際資源学部事務長)

嘉興学院副院長一行の表敬訪問

5月12日、嘉興学院副院長一行が秋田大学を訪問され、本学からは、私、高橋国際担当副理事、佐藤国際課長、国際資源学部の三島望教授及び教育文化学部の荒井壯一講師が懇談会に同席しました。

嘉興学院とは2014年10月に大学間協定および学生交換の覚書を締結しており、今回の訪問では今後の学生交流や教員交流の活発化に向けて懇談しました。

嘉興学院副院長である費建文氏は、嘉興学院教育学科の卒業生を秋田大学大学院へ推薦するプロジェクトを検討していることや、教員の交流、学術研究の面で更なる交流、協力を検討していることをお話しされ、秋田大学としても三島教授の所属する共同LCD（ライフサイクルデザイン）工学専攻では最大1名の受入準備が整っており、大学院での受け入れ等前向きに検討することをお伝えしました。

また、学生交換についても積極的に考えており、嘉興学院の日本語学科では秋田大学が留学先として大変人気で、今年度から是非日本語学科の学生を秋田大学に送りたいとお話がありました。

その他にも昨年10月、嘉興学院100周年記念式典と共に参加させていただいた東アジア経済文化フォーラムへの継続的な参加をお願いしたいとお話しもありました。

嘉興学院とは、協定締結以前の2007年からの交流以来、毎年のように講義や講演等の交流が有ります。

今後は、協定および学生交換の覚書を締結したこともあり、今回の訪問でお話したことをはじめ、更に活発な交流を期待するところであります。



(山本 文雄：Yamamoto Fumio 国際交流センター長)

VIT大学と協定締結

6月12日、インドのVIT大学からS. Kalainathan教授が先方の学長より署名された協定書を持参のうえ本学を訪問しました。澤田賢一秋田大学長が同協定書に署名し、本学とVIT大学との間で大学間協定が締結されました。今回、大学間協定を締結したVIT大学はインド国内においてトップクラスに属している私立の理工系総合大学であり、学生数は24,000人以上、学生の出身国は50カ国以上となっており、卒業生の多くは世界中の大企業に就職しています。

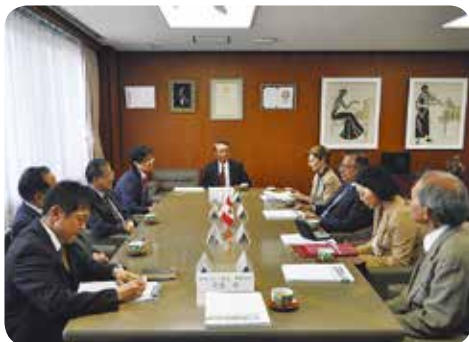
VIT大学との関係は本学の濱田名誉教授が2013年にVIT大学で開催された国際学会の招待講演依頼を受けたことから始まりました。その後、昨年度は今回来られた、S. Kalainathan教授を客員教授として3ヶ月間招聘し、本学での講演や研究の打ち合わせなどを実施し、相互の交流を深めました。

VIT大学は理学から工学、社会科学まで幅広い9つの学部と10以上の研究関連センターを有していることから、本学全ての学科・研究室と連携を結ぶことが可能であります。また、本学に在籍する学生の皆さんも留学が可能でありますので、ぜひ、留学をご検討ください。

(近藤 良彦：Kondo Yoshihiko 大学院工学資源学研究所 講師)

在日ペルー大使表敬訪問

ペルー共和国のエラルド・エスカラ駐日大使が、平成27年5月20日に秋田大学を訪問されました。秋田大学からは澤田学長のほか、山本国際交流センター長、佐藤国際課長などが同席し、両国間の交流や秋田大学の紹介、ペルーの経済情勢や文化などについて懇談しました。エスカラ大使は、秋田大学のことを事前に調べられ、最近の活動に強い関心をお持ちでした。また、秋田大学との交流に大きな期待を寄せられ、「秋田大学の海外協定校の中にペルーの大学を加えて欲しい」、「ペルーの主要産業である資源分野のつながりは政策的にも重要であり、できるだけ早くペルーに来て、学術交流、共同研究などを進めて欲しい」、と何度も口にされていたのが印象的でした。エスカラ大使は、大使として20年以上の海外経験をお持ちですが、魅力ある国際派の話しぶりを伺うと、南米の資源国「ペルー」との親密な交流をできるだけ早く始めたいと実感しました。



(柴山 敦 : Shibayama Atsushi 国際資源学部 教授)

王立ブータン大学より保健学科にて研修受入

ブータン大学健康科学院からお二人の教員を招き、保健学科で研修を行いました。研修期間は2月17日から3月1日で、秋田大学保健学科、秋田大学附属病院での研修が主体でしたが、お一人の教員が助産を専門とされていた関係で、2月26日から帰国までは横浜市の助産院で研修を行いました。

保健学科の研修では、各専門の教員による秋田大学での看護教育の紹介に加えて市内のクリニックで開かれているマタニティーコースを実体験して頂きました。また、理学療法学並びに作業療法学教育を紹介し、授業に体験参加して頂きました。この2専攻分野はブータン大学健康科学院にはない専攻分野ですが、そのため大変興味深い研修であったと伺っています。

日本文化に触れて頂きたいと思い、研修中に池坊の先生のご厚意で生け花を体験して頂きました。様々なお作法には少し戸惑われたようですが、ブータンに帰って紹介できるようにプレゼントの剣山と水盤を大切に持って帰られました。

大学附属病院での研修やシミュレーションセンター見学では、ヘルスケア技術の進歩とハイテク機器が大変印象的であったと伺いましたが、日本での研修がブータン健康科学院の発展に少しでも寄与できることを願っています。



(山口 典子 : Yamaguchi Noriko 医学部 准教授)

春季留学生オリエンテーション

4月3日、国際交流センターでは新留学生を対象に、「平成27年度1期秋田大学外国人留学生オリエンテーション」を実施しました。キャンパス生活をする上で必要な施設や手続き等についての説明が行われ、新留学生は熱心に耳を傾けていました。

オリエンテーション終了後は、大学会館を会場に近隣住民を招いての歓迎会を行いました。秋田大学サークル“Borderless”の学生も参加し、有意義な交流の場となりました。

(高橋 幸江 : Takahashi Yukie 国際課留学生交流・支援担当)

セント・クラウド州立大学留学記

留学生活が始まり早くも5か月が過ぎようとしています。新しい環境・友達、授業、イベントへの参加など毎日が新鮮で楽しく、本当に充実しています。留学前、海外での長期滞在が初めての自分にとっては、不安な点がたくさんありました。しかし、いざ生活が始まるとルームメイトやクラスメイトに恵まれ、たくさんの助けを借りながら、よいスタートが切れたように思います。そして、なによりJPnetworkという学生団体に加入したことがこの生活をより貴重なものにしてくれていると思います。3月にはその団体が主催となるJapanNightというイベントに私も主催者側として参加しました。準備や練習の段階では言語や文化が異なる仲間に意見を伝え、分かり合うことは容易なことではありませんでしたが、その分当日イベントが成功したときの達成感は格別でした。春学期を終えた今でもまだまだ苦勞を感じることはありますが、それも自分の成長の糧とし、何事にも前向きに取り組んでいくことの大切さを実感しています。留学を決意して本当に良かったと思えることがこれまででもたくさんありましたが、残りの留学生活もさらに様々なことに挑戦して何より楽しむことを忘れず、この貴重な時間を大切に過ごしていきたいです。

(山崎 達也 : Yamazaki Tatsuya 教育文化学部国際言語文化課程3年次)



JapanNightでのソーラン節

海外で学ぶ

平成27年度第1回秋田大学留学説明会

5月21日に海外留学を希望する学生に向けて、海外留学説明会を開催しました。交換留学制度の説明と協定校紹介に続いて、佐々木美祐さんと佐藤千浩さんの2名が留学体験発表を行いました。

イスラエルのハイファ大学は、青々とした地中海に面した山の上のてっぺんに立ち、世界中から学生が集まる、イスラエルでもトップクラスの大学です。私はそこで約1年間、交換留学をさせていただきました。

イスラエルは様々な面を持っている国で、1日たりとも飽き足りることはありませんでした。旧約聖書の律法を守って生活しているユダヤ教徒が多いので、食事規定があり、安息日や、その他の宗教的な祭日も徹底して行われます。旅行も、1年あっても足りないほど、訪れるべき場所は数知れません。

私はイスラエルにすっかり魅せられてしまいました。帰国して1年ほど経ちますが、もっと学びたいという思いは深まるばかりです。生涯取り組み続けたいことを見つめることができた留学でした。

(佐々木 美祐 : Sasaki Miyu 教育文化学部 国際言語文化課程4年次)

私は2014年2月から約一年間、中国甘粛省にある蘭州大学に交換留学していました。

蘭州大学に所属している日本人は少数で、留学生のほとんどが中央アジア国の学生である上に、授業も少人数クラスなので必然的に中国語を話す機会が多く、この留学期間で中国語のレベルをアップさせることができたのではないかと思います。今振り返ると、はじめの頃は中国語を思ったとおりに話すことが出来ずに悔しい思いをたくさんしました。しかし、日本人とは行動を共にしない、学生交流イベントには必ず参加する、1人で旅行に行くなど、自分なりに対策を立てて1年頑張ってきたおかげで、語学力だけではなく、行動力や忍耐力が身に着きました。1年間の留学をサポートしてくれた方々に心から感謝し、留学で学んだことを無駄にせず、これからも日々努力して行きたいです。



クラスメイトとの集合写真

(佐藤 千浩 : Sato Chihiro 教育文化学部 国際言語文化課程4年次)

留学ウィーク

5月25日・26日・27日に、秋田大学で学んでいる協定校からの交換留学生6名が、それぞれの母校の大学紹介を行いました。留学を検討中の日本人学生が参加し、留学先を選ぶための情報収集を行いました。

The University of the Philippines (UP for short), is the Philippines' national university and is founded in 1908. It is composed of seven constituent universities that are located all around the country, with UP Diliman Campus as the flagship campus.

When it comes to choosing classes, there are subjects that are related to social sciences, natural sciences, literature, physical education and a lot more and many of these are taught in English.

There are a lot of other things to look forward to like for example, the annual Lantern Parade, which is held during December. This is an event where the different colleges display their colorful lantern floats around the campus. Also, around the campus, we have our own public transportation which called Ikot and Toki Jeepneys. If you want to go from one building to another, riding these jeepneys will be convenient. There are also museums and theatres in the university. There are a lot more sources of entertainment while you are in the university.

There are a lot of things to do if ever you decided to study in UPD. Filipinos are known for their hospitality, so I bet when you arrived, you will feel very comfortable and at home. If you want your experience while studying in abroad to be culturally and educationally fulfilling, then UPD is the place for you.

(BABIERA, KARREN GRACE ABIAN : 国際資源学部特別聴講生)

University of Haifa has one of the best landscape in Israel, even as a touristic sight see.

Haifa is Israel's third largest city, first and foremost a port city for international commerce. Famous for its Coexistence ethnically diverse -Christian, Muslim, Druze and Jewish communities from Europe, North Africa, the Middle East, North and South America, Ethiopia, India and immigrants from countries formerly part of the Soviet Union, that contribute to the city Cultural life, creating a modern Mediterranean city that is truly special.

Aside from the local diversity, you can study with close to 900 exchange students from over 40 different countries, in a wide variety of courses taught in English.

Unlike in Japan, in Israel students enjoying discount for most of the things like transportation, entrance fees, parties and even restaurants and bars, what makes the student life in Haifa much more fun and easy.

In case you miss 'Karaoke' or 'Sushi' you can find it easily in a lot of places because It's growing popularity, just don't expect Sushi quality like in Japan and you might even enjoy it.

Hope to see you in Haifa.

(Yael Grafy : 教育文化学部日研生)



ハイファ大学のキャンパス

秋田－蘭州大学職員相互派遣

3月16日から6月10日まで中国・蘭州大学職員の馬龍泉さんが秋田大学国際課で研修を行いました。約3ヶ月の研修を通して日本語はもちろんのこと、秋田の自然文化や食文化に触れ、有意義な研修となりました。

蘭州大学と秋田大学職員の相互研修の覚書によって、2015年3月16日から6月10日まで、私は秋田大学で研修を行いました。研修期間中、日本語と日本文化を勉強したり、秋田大学での中国語の授業を補助したり、秋田大学の職員向けに中国語講座を開催したりしました。

また、秋田大学の入学式、新留学生オリエンテーション・歓迎会、米山奨学金授賞式や男鹿市への実地研修などの活動に参加しました。6月11日、私は無事研修を終えて帰国しました。

(馬 龍泉：Ma Longquan 蘭州大学職員)



男鹿での実地研修



国際課長と(本人右)

副センター長よりあいさつ

4月に国際交流センター副センター長に就任した藤井です。大学卒業後は13年間石油開発会社に勤務し、その後に大学教員に転職して15年近くになります。企業勤務時はサウジアラビアというイスラム教の戒律が最も厳しい国で技術者として6.5年間を過ごしました。同国での生活にはお酒、豚肉、女性の運転・顔出しなどの禁止事項がありましたが、慣れると不自由ながらも治安が良く、穏やかで楽しい生活を過ごせました。また、現地でのサウジ人・クウェート人との勤務時間外での交流は、お酒抜きでしたが宗教の違いを越えて楽しいものでした。秋田大学では地中熱利用という省エネ技術を中心に研究を進めており、欧米の研究者との共同研究が多いので、近年ではフィンランドとイタリアの研究機関・大学と国際交流協定を締結できました。今後はこれらの経験を活かして世界に通じる人材育成と国際競争力のある研究推進に貢献したいと思います。



(藤井 光：Fujii Hikari 国際資源学部 教授)

専任教員よりひとこと

横手市の協力のもと、平成20年から田植えの時期に大森地域で1泊2日の農家民泊体験を行っています。今年の参加者は例年の2倍近い40名(留学生37名、日本人学生3名)であったため、増田地域、十字地域、平鹿地域まで範囲を広げ、10軒の農家にお世話になりました。この体験を通してそれぞれが感じたこと、学んだことを広く伝えるため、そしてそれを横手市グリーンツーリズムの広報につなげるため、7月中旬に一般公開という形で体験報告会を行います。報告会には、お世話になった農家の方10数名も横手から駆けつけてくださる予定です。成果物は国際課のホームページにアップする予定ですので、興味をお持ちの方は是非ご覧ください。

(平田 未季：Hirata Miki 国際交流センター 助教)

■専任教員科研費助成事業採択結果一覧

研究代表者	交付金額(単位:千円)			研究課題名
	直接経費	間接経費	計	
平田 未季	800	240	1,040	談話参加者が共同注意を確立するプロセスから見る日本語指示詞の意味と機能
佐々木 良造	1,000	300	1,300	在日外国人情報弱者のための母語による子女の学校教育関連情報提供システムの構築
市嶋 典子	1,300	390	1,690	中東地域の日本語教師と学習者の言語意識の把握と相互理解を目指した実践モデルの構築

■国際交流協定校情報

大学間協定(合計29ヶ国・地域:56大学等) 部局間協定(合計9ヶ国・地域:17学部等)

(2015年7月9日現在)

■秋田大学の留学生数

合計210名 学部生:89名 大学院生:63名 交換留学生・研究生等:58名

(2015年5月1日現在)